

Ⅰ 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
・子ども主体の活動を推進する。 ・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る。	・思考力・表現力に課題がある。 ・他者理解の醸成が十分できていない。 ・運動やスポーツに親しむ児童生徒が増えてきたが、運動習慣の活発・非活発群に二極化が見られる。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒
		中学校区とし統一した取組等	・「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 ・生徒指導の3機能を生かした生活づくりを進める。 ・運動に親しむ取組、体力向上の取組を進める。 ・学校における働き方改革を進める。

Ⅲ 自 校

ミッション			育成する力 資質・能力	課題発見・解決力	思考力・判断力・ 表現力	主体性・積極性	共感力	
見えない「人間の根っこ（学問・社会性）」を育てる			めざす 子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
学校教育目標				3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力				5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
現 状			研究	教科等	学びをデザインし、自己選択・自己実現のできる児童の育成			
〈児童〉 ○国語科・算数科の肯定的評価、「好き」(87%、84%)「よくわかる」(93%、93%)「学びが面白い」(91%、88%)であった。 ○単元テスト「思考・判断・表現」観点における60%未満の児童、国語(低8.2%、中3.7%、高3.7%)、算数(低4.0%、中11.2%、高5.2%)であった。 ○「相手を受け入れる」肯定的意識80%以上は17/18クラスであった。 ○「運動やスポーツをすることが好き」と答える児童は91.3%であった。 〈授業〉 ○「分かる」とは何か「できる」とは何か、共通認識がもてるように研修の交流を行いながら児童の学びや思考がつながる授業づくりに取組んだ。 ○全国学力・学習状況調査の分析や単元構想シートを作成し、学期末には教員間で交流を行い、更なる授業改善に取組んだ。				主題・ 内容等	「獲得」「活用」のサイクルを生む学びの創造			
			めざす授業の姿	①カリキュラムマップをもとに、全教科で他教科や領域、行事等との内容の関連を見通し単元構成や1時間ごとの授業づくりを行う。 ②児童自身が自律した学び手となるように、授業や生活場面で自己選択・自己決定の場を設定する。 ③個別学習と協働学習を往還的に行い、得た知識を自分の言葉で再構成させる振り返りを充実させることで、協働の学びの質を向上させる。				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		大津野小		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	基礎学力の定着と 思考力・判断力・ 表現力の育成	★	見 直 し	・「わかる」「で きる」「学びが面 白い」と実感でき る児童を目指し、 主体的・対話的で 深い学びを創造す る。	「授業づくりポート フォリオ」を活用 し、自己選択・自己 決定できる場を設け た授業づくりを行う ことで、自ら学びを 深める児童の育成を 図る。	国語科・算数科の授業は 「好き」「よくわかる」 「学びが面白い」質問項 目に対する肯定的評価8 7%以上にする。【児童 アンケート】									
				・国語科・算数科 における基礎学力 の向上を図る。	カリキュラムマップをもと に、全教科で他教科や領 域、行事等との内容の関連 を見渡し単元構成や1時間 ごとの授業づくりを行う。 全校で統一した内容のドリ ルタイムを行い、基礎学力 を高める。	・単元テスト（国語科「思 考・判断・表現」、算数科 「知識・技能」観点）や各種 学力調査において、60%未 満の児童を低学年6%、中 学年9%、高学年12%未満 及び全国平均以上にする。 【単元テスト・全国学力・ 標準学力調査】									
3	主体性・積極性、 共感力の育成	★	見 直 し	お互いの立場を尊 重し合え、他者理 解のできる児童を 育てる。	学期に1回、お互いのよさを 認め合える場面を設定する。 （なりたい自分の振り返り） 月に1回、代表委員会でお互 いの取組を認め合う場の設定 を行い、各クラスに伝えるこ とができるようにする。	学級力リーダーチャート における「相手を受け入 れる」を80%以上にす る。【毎月のリーダー チャート】									
3	たくましい体の育 成		継 続	・めあてをもち、自 ら進んで健康・体力 向上を図る児童を育 てる。	体育の授業が「楽しい」と思 えるよう授業改善の推進を行 うとともに、児童が自分自身 で工夫し、自主的に取組める ような場づくりを行う。 体育委員会で体力向上の取組 を考え、定期的に行うこと で、運動やスポーツに対して の意欲を高める。	運動やスポーツをするこ とが好きな児童を87% 以上にする。【児童アン ケート】									
4	教職員の元 気・笑顔	★	見 直 し	・業務改善の実施及 び心身ともに健康 で、やりがいをもち ながら職務を遂行す る。	週・月ごとの計画を 早めに立て、見通し を持って職務を遂行 する。 職員の状況の把握 し、精神・健康面の ケアや業務達成の支 援をする。	時間外勤務時間の平均 45時間未満の月 100%にする。 仕事のやりがいを感じ ている教職員を90% 以上にする。【職員ア ンケート】									
1	保護者・地域から 信頼される、地域 とともにある学校の 創造		見 直 し	・保護者・地域に信 頼される教育活動を 進めるとともに、自 ら考え行動し、地域 に愛着をもち、地域 貢献する児童を育て る。	当たり前のこと（挨拶・掃 除）が当たり前にできる児童 を育成するために、生徒指導 や特別活動の充実を図る。 HPなどを活用し情報公開を 行う。 月1回以上の学校便りと学年 通信発行で児童の様子を伝え る。	保護者満足度を平均で 90%以上にする。 【保護者アンケート】									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。